

関係各位

公益社団法人日本ローイング協会
事務局・審判スタッフ・強化スタッフ
WR 国際審判 (No.1627) 中島 大祐

【大会参加報告】 2023 World Rowing Beach Sprint Finals & World Rowing Coastal Championships
Barletta, Italy 2023/9/29~10/8

1. はじめに

- (1) イタリア南部 Barletta で 2023 年 9 月 29 日 (金) ~10 月 2 日 (月) に開催された World Rowing Beach Sprint Finals (以下、BSF) 及び 10 月 6 日 (金) ~8 日 (日) に開催された World Rowing Coastal Championships (以下、WRCC) に Jury (ITO 審判員) として参加した。
- (2) ここ数年、WR は BSF と WRCC を 2 週連続で実施しており、Jury は両大会に従事する Jury と、後半の WRCC だけに従事する Jury がいた。自分は Beach Sprint (250m 往復) の審判は国内で何度か経験があったが、Coastal Rowing (予選 4km、決勝 6km) の審判は初めてであった。
- (3) 両大会には日本からも選手が参加したが、私は審判業務に加え、両大会に参加した選手・スタッフが WR や現地 OC とコミュニケーションを取る際のサポートを行うと共に、今後、日本が Beach Sprint や Coastal Rowing の大会を行う場合に参考となる情報の収集にも努めた。具体的には NZL の Coastal の強化体制を NZL の Jury から聴取、WR の Coastal Commission Chair の Guin Batten GBR を JARA 関係者に紹介、Guin と共に Coastal/Beach Sprint を育ててきた Pasquale Triggiani ITA と大会終了後に個別面談を実施、等である。
- (4) Beach Sprint は 2028 年 Los Angeles オリンピックで Rowing 競技の新たな種別 (discipline) として実施が決まっており、世界の Rowing 界で注目が集まっている。今回の大会では Classic Rowing (静水を漕ぐ伝統的な Rowing) の先進国が Beach Sprint 及び Coastal Rowing に更に力を入れ始めたことを強く感じた。<https://worldrowing.com/2023/10/27/how-beach-sprints-came-to-be/>
- (5) 私事になるが WRCC 第 2 日 (最終日前日) に左目の網膜剥離を発症し、最後の 1 日半は審判業務から離脱せざるを得なかった。土曜 15 時に目の不具合を PoJ (審判長) に訴え、会場の医務室から総合病院に急患予約をしてもらい、土曜・日曜の診察・検査を経て、月曜 08 時に手術を受けられた。WR が緊急事態に迅速・適切に対応してくれることの現れだと強く感じると共に、不具合を抱えたまま最後まで審判業務を行おうとしていた自分が間違っていたことを痛感した。審判業務を急遽カバーしてくれた審判仲間、3 日間病院送迎をしてくれた現地組織委員会、診察と病院予約をしてくれた WR・現地組織委員会の連合 Medical チーム、電話で助言をいただいた日浦幹夫 JARA 業務執行理事、その他関係者の方々には大変お世話になった。この場を借りて感謝申し上げる。(尚、手術代や帰国便変更代は海外旅行保険で概ね賄うことができた。)

2. 大会概要

(1) 日程

<World Rowing Beach Sprint Finals> (以下、BSF)

9 月 28 日 (木) 前日

15:00- Team Managers Meeting 16:00- Jury Meeting 18:00- Opening Ceremony

9 月 29 日 (金) 第 1 日

<時間帯> <Round> <自身の審判配置>

09:00-10:11 T Lane Umpire 1

10:21-12:10	T	Control Commission/Athlete Weighing
12:20-13:28	T	Lane Umpire 1
15:00-16:22	T2/R	Lane Umpire 2
16:32-17:47	K	Starter/Finish Judge

9 月 30 日（土）第 2 日

09:00-10:30	K/R	Starter/Finish Judge
11:00-12:29	R/H/T2	Lane Umpire 1
14:00-15:48	Q/SF/F	Turn Mark Umpire
16:00-17:48	Q/SF/F	Turn Mark Umpire

10 月 1 日（日）第 3 日

09:00-10:35	K	Judge at the Start/Race Umpire
11:00-11:55	K/F	Starter/Finish Judge
13:00-14:41	Q/SF/F	Lane Umpire 2

10 月 2 日（月）予備日（Spare Day）

07:20-10:23	Q/SF/F	Lane Umpire 1
-------------	--------	---------------

<World Rowing Coastal Championships>（以下、WRCC）

10 月 5 日（木）前日

16:00-	Jury Meeting（ITO/NTD 合同）
17:00-	Crew Captains Meeting

10 月 6 日（金）第 1 日

12:30-16:30	H1/H2/H3	Judge at the Finish
-------------	----------	---------------------

10 月 7 日（土）第 2 日

08:00-12:00	H1/H2	Turn Mark Umpire 3
13:30-17:00	H2/H3/FB	Judge at the Start 1（自身は 15:00 に離脱）

10 月 8 日（日）第 3 日（自身は眼科通院のため不参加）

08:00-09:30	FB
10:00-11:30	FA
14:30-16:45	FA

(2) 競技会場

イタリア南部プーリア地方、アドリア海に面した Barletta のビーチ及びその沿岸を使用。Barletta は Bari 空港から車で北に約 1 時間、鉄道によるアクセスも可能。

BSF のビーチ（スタート・フィニッシュ共用）を WRCC のビーチフィニッシュ地点とし、沖に向かって左側（海岸が東西方向に広がっているため西側）約 200m のビーチを WRCC のビーチスタート地点とした。

(3) 宿泊・食事等

・集合：

<BSF> 9 月 28 日（木）16:00 Jury Meeting

<WRCC> 10 月 5 日（木）16:00 Jury Meeting

・宿泊：Barletta 市内の「La Terrazza」。朝食はホテルで、夕食は徒歩 2 分のレストラン「Bagni Teti」で。ホテルからスーパーマーケットまでは徒歩 15 分。

・昼食：会場の Dining でホットミール（ビュッフェではなくランチボックス風）が提供された。

・ホテルから会場への移動：シャトルバスで 10 分（徒歩なら 45 分）。WRCC の Turn Mark Umpire は船着き場で途中下車しプレジャーボートに乗船。

(4) ITO/WR 役員

President of Jury : Angela Alonso Fernandez ESP

Jury/ITO :

<BSF> 6 名 (欧州 2 名、米州 1 名、オセアニア 1 名、アフリカ 1 名、アジア 1 名)

<WRCC> 14 名 (欧州 8 名、米州 2 名、オセアニア 1 名、アフリカ 1 名、アジア 2 名)

Umpiring Commission

Chair : Patrick Rombaut BEL (補佐 Fabio Bolcic ITA)

Member : Kris Grudt USA、Ines Hammami Hafsa TUN、Gabriela Isenschmid Weber SUI

Coastal Rowing Commission

Chair : Guin Batten GBR

Technical Delegate : Manuel Pita POR

Member : Marcelo Santos BRA

Pasquale Triggiani ITA (本大会 OC の Venue & Competition Manager)

(5) 審判内コミュニケーション・部署移動

・Jury Meeting は、BSF はレース開始 09:00 の 75 分前に、WRCC はレース開始 08:00 の 60 分前に会場で実施。WRCC の Turn Mark Umpire は船着き場でシャトルバスを途中下車するため Meeting には参加できない。レース終了後は Meeting なし。

・WhatsApp によるグループが作られ、PoJ/Jury/Patrick/審判委員の間でレースに関する連絡の他、移動時刻、食事時刻などの確認等に使われた。特に WRCC では Judge at the Start が手書きする Boat Number List が毎レース送られてくるので WhatsApp 無しには審判ができない環境だった。

・NTO は殆どが地元イタリア人だったが DEN の Caren もいた。陽気なお国柄でレースの合間に NTO 同士が記念撮影を始めたりする場面もあったが、その場の空気を壊さないように注意した。

3. 大会運営 (総括)

Classic Rowing では見られない BSF・WRCC に特徴的な事項について記載する。

(1) 砂浜ならではの簡易設備・人海戦術

・大会運営に用いられる砂浜上の施設は基本的に「仮設物」、電源は石油発電機だった。日常は海水浴場として使われている砂浜で大会を行う上で避けられないことだと思った。

・石油発電機は負荷が高くなると度々ダウンした。BSF の第 1 日は、第 1 レース 30 分前の 08:30 頃にダウン、DJ による音量上げ過ぎが原因とのことであった。電源復旧を待たず定刻 09:00 にレース開始。Starter の発艇号令はハンドマイクで届かせた。09:07 頃に復旧し、その日は再発しなかった。第 2 日は大会開始から約 1 時間後の 10:00 過ぎにダウン、4 レースをハンドマイクで発艇した。尚、Swiss Timing は別系統の電源を確保しており記録システムは被害を被らなかった。

・艇の移動は人手頼み。種目の入れ替え時に C4x+を運ぶには中高生のボランティアだと 6 人くらいいないと大変そうだった。屈強な大人なら 4 人くらいでも大丈夫だった。

(2) BSF の大会運営方式

・16 エントリーまでなら Time Trials は 1 回、16 エントリーを超えると 9 位以降は Time Trials 2 を漕ぎ、16 クルーに絞り込んでから Knockout に進む。

・Knockout 以降は Head to head (1 対 1) 方式。

・Pool Boats (貸艇) : Time Trials では各種目 7 艇に、Head to head (Knock Out 以降) では 2 艇×3 組に、それぞれ順番に乗艇する。

・Beach Start・Beach Finish : 旗と肉声でスタート、マッシュルーム (ボタン) でフィニッシュ。

- ・ Lane Selection : QF 以降は前 Round でタイムが早い方が 10 分前までに Lane を選択する。Repechage を経由したクルーより Repechage を経由しないクルーに優先権がある。
- ・ Time Trials では Lane 2 (右側) を Slalom-out、Lane 1 (左側) を Straight-back。
- ・ Head to head では各 Lane を Slalom-out ・ Straight-back。
- ・ Beach run : Time Trials では Out も In もフラッグの外を走る。Head to head では Out は最短距離を走り、In はフラッグの外を走る。
- ・ Penalty : Missing 1st/2nd Buoy は各 30 秒、Missing 3rd Turn Buoy は 120 秒、Return run の旗不通過は 10 秒を夫々フィニッシュタイムに加える。
- ・ BSF スタート前のインタビューは、スタートの 2 分前までに終了させようとしていたようだが、実際には 2 分 30 秒前から 1 分 30 秒前にかけて行われていたことが多かった。
- ・ BSF でベスト 4 まで絞り込まれ、Final B と Final A を残すのみになったタイミングでは司会者が観客にウェーブを促し、会場が盛り上がった。



左 : Guin 委員長、右 : DJ Mark 写真 : Team Manager Meeting

(3) WRCC の大会運営方式

- ・ 使用艇は Own Boat と Hire Boat が混在している。
- ・ Heat と Final B は 4km コースで 7 Turn Mark、Final A のみ 6km コースで 10 Turn Mark。
- ・ Beach Start ・ Beach Finish : 旗と肉声でスタート、マッシュルーム (ボタン) でフィニッシュ。
- ・ Penalty : False Start は 120 秒をフィニッシュタイムに加える、
- ・ Missing Turn Mark Buoy は DNF となり順位は付かない。

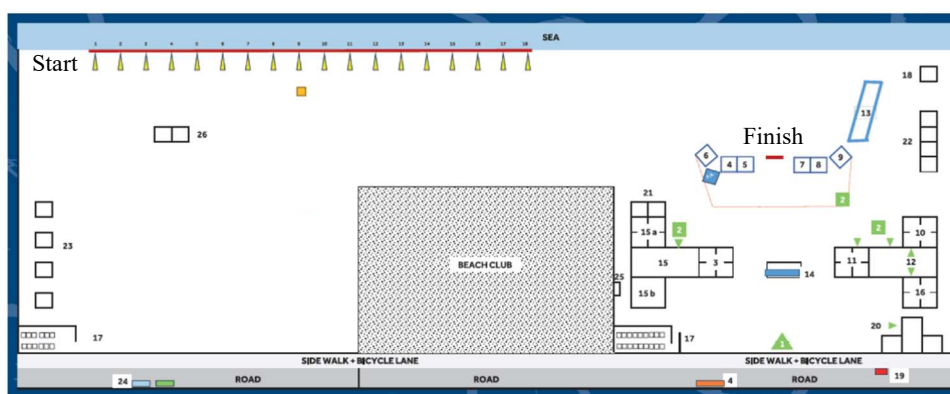


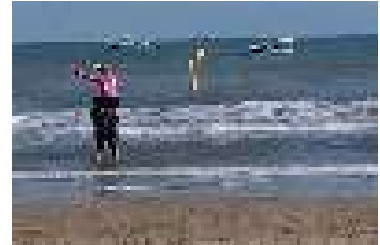
図 : 会場レイアウト



写真 : Team Captains Meeting

(4) BSF の Boat Handler

- ・ TMM で BH に関する細かい注意があったが、レースでは BH の違反行為が多く見られた。
 - ・ 着岸時に BH が艇を押さえる前にクルーが艇から水中に飛び降り、走り始めるのは NG。
 - ・ 着岸時に BH が遠巻きに見ているだけで艇を押さえないのは NG。（艇を押さえないどころか「あちらに向かって走れ！」と Runner に指示を出したり一緒に走ったりするのは論外、との WR 指摘も。）
 - ・ BH がビブスを着ていないのは NG。
- ・ 波が高い時には BH がもう 1 人の BH の腰を抱いて高さを出すことで岸から離れて行くクルーから見えやすいようにしていた。これは非常に効果的と思われた。違反行為ではない。



(5) WRCC の Boat Handler

- ・ BH はクラブのユニフォームを着なければならない。何か違反をした時にどのチームの BH かがすぐにわかるため。
- ・ BH は艇に乗り込んではいけない。肩より深く潜ってはいけない。
- ・ C4x+では BH を 4 人用意することが義務付けられた。着岸した後、すぐに横移動しなければ危険だというのがその理由。
- ・ あるクルーの BH が目立つ色の蛍光色の帽子を振ってクルーに方向指示を出していたが、これは違反行為だと指摘された。

(6) 安全第一

- ・ WRBSF での TMM、WRCC の Crew Captains Meeting で以下順番が繰り返し強調されていた。
 1. クルーの安全
 2. 艇のコントロール
 3. レース結果
- ・ 例えば BH がレースに勝ちたいからと Runner に速く艇から飛び降りさせ、選手が降りた後のボートは放っておいて、Beach run のルートを示す（場合により一緒に走る）等というのはこれらの順番と全く反対であり、あってはならないことだと説明があった。

(7) 水上の舟艇

- ・ 安全対策の舟艇としては、救助艇としての小型プレジャーボートと Jet Ski が用意されていた。
- ・ Turn Mark Umpire は小型プレジャーボートを使用。
- ・ その他に Camera Boat、Coast Guard、Navy の舟艇も浮いていた。

4. BSF 審判（各論）

(1) Starter/Finish Judge（発艇・判定）

① メンバー・用具

- ・ ITO は Starter と Finish Judge のダブルロール。
- ・ NTO は Starter が発艇旗を振り下ろすと同時に Hooter を鳴らす。

② 基本動作

- ・ Start procedure：Get ready までは Prerecorded announcement（低音ボイスの録音音源）をボタンを押して再生した。
 - ・ 3 分前に「3 minutes」のボタンを押す。（TT 等でレース間隔が短ければ省略）
 - ・ 1 分前に「1 minute」のボタンを押す。
 - ・ 1 minute から 30 秒前の間に「put the boat in the water」のボタンを押す。

- ・ 30 秒前に「Get ready」のボタンを押す。
- ・ 波の状態が良いタイミングで「Attention」「Go!」と発声する。
- ・ NTO は同時に Hooter を鳴らす。



・ 審判委員から、Put the boat in the water のタイミングは、C1x・C2x は 30 秒前、C4x+は 45 秒前、パラ PR3 では 1 minute コールの直後とするよう指示があった。パラ以外で 1 minute コールを聞いて癖で動いてしまう BH には Don't move 等の声掛けでコントロールをした。PR3 では視覚障害選手がいなかったため、"Red flag"と声に出して言う必要はなかった。

③ 現場での気付き

- ・ 第 1 日に Swiss Timing から「Time Trial の時に Finish と Start のタイミングが近すぎるとシステム上の不具合が発生するので Finish から少しタイミングを開けて Start をするように」との話があった。また Finish ブザーは鳴らないようにしていた。
- ・ 一方で 2 日目の Time Trial では Finish ブザーが鳴るようにしていた。Finish ブザーを聞いてスタートする選手もいて、Starter がコントロールするのに大変そうだった。
- ・ Get ready の後に誤って Attention を発声することなく Go と発声してしまった。Start runner が旗まで走ってから止め、再スタートした。もう少し早く止められれば良かった。
- ・ Finish ブザーを選手が押し損ねても Swiss Timing が動画からタイムを拾っていた。
- ・ Go の直前にスタートラインから 1 歩出てしまうクルーがいたが、慌てて戻って正常にスタートした。これについては審判委員から「よくあることなので不問で良い」と言われた。
- ・ NTO が鳴らずブザーが 1 秒ほど遅れることがあった。スキルの問題ではなく、集中力を欠いたためと思われた。
- ・ False Start があり Judge at Start が赤旗を振ったレースで、Starter の自分は気付くのに遅れたが、"Stop! Stop the race!"と叫んでレースを止めた。Judge at Start が審判委員と共に Swiss Timing が撮影した動画を確認したが実際には False Start ではないとの判断になった。Patrick から"Technical False Start, no sanction. Re-row."と言うように、と言われ、その通りアナウンスし、5 分後に再スタートした。



奥左：Starter、手前右：Judge at the Start

上：カメラ、下：ボタン 写真：Start 直前

(2) Judge at the Start (線審) /Race Umpire (主審)

① メンバー・用具

- ・ ITO 1 人、NTO 2 人
- ・ 白旗、赤旗

② 基本動作

- ・ False Start がないかどうかを確認する。

- ・ Race 成立の白旗を上げる。Lane Umpire 2 人が上げてから Race Umpire が上げると美しい。

③ 現場での気付き

- ・ Start runner のルートに近付き過ぎると邪魔になるので注意。
- ・ スタートポールに手をかけてスタートしている選手がいたが違反ではない。

(3) Lane Umpire (レーン審判)

① メンバー・用具

- ・ ITO が各レーンに 1 名ずつ配置される。NTO は配置されない。
- ・ 各レーン水上の 3 つのブイを結んだ線の延長線上のビーチ上に 50cm くらいの高さの台 (2m 四方) が用意されており、その上の椅子に座った。
- ・ 用具は当初赤旗・白旗のみであったが、BH の違反が多く、声で注意する必要が出てきたため、ハンドマイクを追加してもらった。



写真：Lane Umpire の乗る台



写真：Lane Umpire からの眺め

② 基本動作

- ・ 陸上はフラッグの正しい側を走っているかどうか、水上はブイの正しい側を通過しているかどうかを確認。Finish Run でリードしているクルーがフラッグの外側を走ることがあったが違反ではないので不問とした。
- ・ フィニッシュ後に、違反があった場合は赤旗を、なかった場合は白旗を上げる。

③ 現場での気付き

- ・ Time Trial 時、No.7 の艇置き場とフラッグが近く、危険だったのでもう少し離せないかと TD に進言し、種目の変わり目に対応してもらった。
- ・ 更に No.7 の艇置き場の近くに着岸後に走ってくる選手との接触を避けるために見張りを立てるよう PoJ に進言し、NTO を別のポジションから 1 人回してもらった。
- ・ 台の上に立たないと見えないことがある。テニスの主審のようなハイチェアがある会場もあったとのこと。
- ・ 双眼鏡は必須。波が高くなるとブイの正しい側を通過したかどうかが見えにくくなるため。
- ・ 初日は台の上にバッグ等、審判の私物を置いたが、2 日目からは動画放映があるので私物は見えない場所に置くよう PoJ から指示があった。
- ・ Finish Run を 2 人走るケースがあった。WRCC では禁止だが、BSF では不問だった。
- ・ 着岸前の Runner 飛び降りが散見された。早めに飛び降りても体の自由が利かない水中を何歩も走る (歩く) ことでかえって遅くなっていたクルーもあった。
- ・ 着岸直前に転覆して足が届く水深だったので泳がずに上陸してフィニッシュしたクルーがいた。泳いでいなかったのが不問だった。

(4) Turn Mark Umpire

① メンバー

- ・ ITO 1 名、ドライバー 1 名。NTO は配置されなかった。

② 基本動作

- ・ Turn Mark を正しく通過しているかを確認する。

③ 現場での気付き

- ・ C4x+でブイを回るのがうまいクルーの中には Cox が Fin を外し、それを回転の内側（ストロークサイド）の船側から水中に入れて方向を変える助けにしているクルーもあった。

(5) Control Commission

① メンバー

- ・ ITO 1 名、NTO 1 名、審判委員 1 名が配置された。NTO 不在時等、PoJ がサポートに入った。

② 基本動作

- ・ Start Gate の手前に集まってくるクルーの到着と服装に問題がないかを確認する。
- ・ Photo Book による確認はせず、Start Runner のユニフォームの名前がスタートリストにあるかどうかを確認。

③ 現場での気付き

- ・ ルールでは 10 分前に集まることになっているが、実際には 1~3 分前に漸く来るクルーが多かった。3 分前になったら審判委員や PoJ と一緒にクルーを探した。ぎりぎりの到着でもイエローカードなどの罰則は与えなかった。
- ・ 発艇 2 分前に「艇の調整をしたいから Start Gate を離れたい」と言ってきたクルーがいたが、「No」と却下した。



写真：直前インタビュー

5. WRCC 審判（各論）

(1) Starter（発艇）

① メンバー・用具

- ・ ITO 1 人、NTO 1 人。NTO は Go の号令と共にブザーを鳴らした。
- ・ 今大会はビーチスタートで、スタートはボールを落とす方式ではなく、赤旗を振る方式だった。
- ・ Starter は 2m ほどの高さのある台に乗り、そこで赤旗を振った。
- ・ スタンドマイクと拡声スピーカーが用意されており、十分な音量で各クルーに音声が届いていた。



写真：Starter 台

② 基本動作

- ・ Start procedure
 - ・ 5 分前に「5 minutes」と発声する。
 - ・ その後、1 分毎に 2 分前まで分読みをする。
 - ・ 1 minute から 30 秒前の間に「put the boat in the water」と発声する。
 - ・ 波の状態が良いタイミングで「Attention」「Go!」と発声する。
(2 分前を令した後はいつでも発艇できる。)
- ・ NTO は同時に Hooter を鳴らす。

(2) Judge at the Start（線審）

① メンバー・用具

- ・ ITO 2 人、NTO 数人で行った。
- ・ ITO は 1 人ずつ白旗を持った。

② 基本動作

- ・ Start 合図の前に、クルーの誰かが艇に乗り始めたり、漕手の胴体や脚の一部が艇の中や艇の上にある場合、そのクルーは False Start を犯したことになる。
- ・ False Start があったらクルー名を書きとめ、Penalty Umpire に伝える。

- ・レースは止めず、Finish 直前の Penalty Box で 120 秒の Time Penalty を与える。

③ 現場での気付き

・ Start 号令の瞬間に多くの艇の False Start を判断する必要があるが、Classic Rowing のように横から艇首を見るのではなく、全艇のクルーの挙動(体の動き等)を見る必要があるため、ITO/NTO で誰がどのクルー(複数)を見るかについての工夫と部署内の連携が重要。

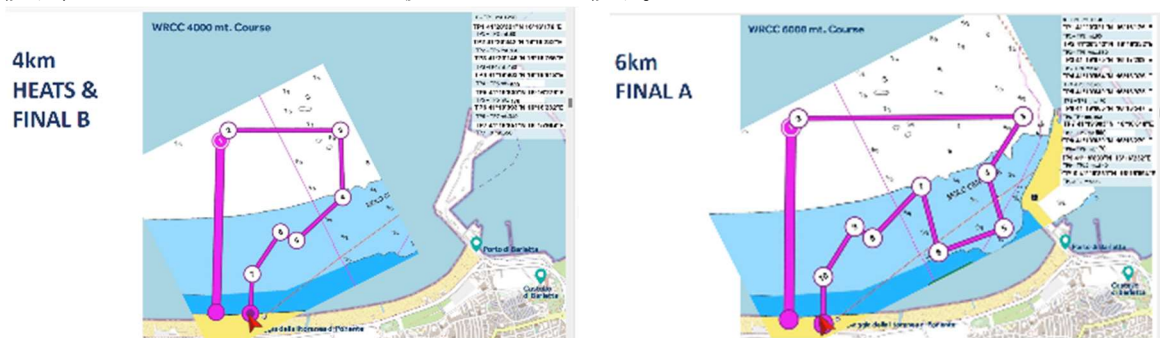
・ある審判委員からは「ブザー音だけを頼りに False Start をジャッジすると誤った判断に陥る可能性がある。Starter が赤旗を振ると同時に NTO がブザーを鳴らすが、音源から Judge at the Start がいる位置までは離れている場合があるため、ブザー音が聞こえてくるのは赤旗が振られてから少し時間が経っている可能性があるからである。」と言われたが、これに対応するのはかなりハードルが高いと思った。

・スタート約 150m でクラッシュがあり、Judge at the Start から Penalty を与えたレースがあった。Race Umpire からは見えていなかったとの判断によるものだった。WhatsApp で Penalty Umpire と PoJ に共有されていた。

(3) Race Umpire/Turn Mark Umpire

① メンバー・ポジション・用具

- ・ ITO、NTO、ドライバーの 3 人組が基本。
- ・ Turn Mark Umpire は通過する艇が良く見え、且つ進行の邪魔にならない位置に審判艇を置く。
- ・ 隣り合う Turn Mark の距離が近い(今大会では 170m 程度の)場合、Turn Mark Umpire 1 人(1 艇)が 2 point をカバーする。
- ・ 4km レースでは Race Umpire 1 人。Turn Mark Umpire 4 人、Spare RU/TMU 1 人という体制。TM-1/2 の TMU は、全艇通過後に TM-6/7 に移動。
- ・ 6km レースでは Spare RU/TMU は TM-6 に固定。TM-1/2 の TMU は全艇通過後に TM-9/10 に移動、TM-3 の TMU は全艇通過後に TM-7/8 に移動。



② 基本動作

- ・ スタート 5~2 分前くらいに CC から WhatsApp で送られてくる Boat Number List の Boat ID、Uniform color、Blades color を手元のスタートリストに転記し、レースが来るのを待つ。
- ・ クルーの安全、公平性、クルーの義務を果たしているか、を監視する。
- ・ ブイを正しく通過したらスタートリストに通過順を記入する。オールや艇が Marker に当たるのは問題ないが、艇の Keel が正しい側を通過しないと不通過となる。
- ・ NTO が同乗していれば NTO に通過順を読み上げてもらい、ITO はメモをする。
- ・ Severe collision の有無を確認し、Interference があつたらメモに書き留め、PoJ に無線で伝えると共に、クルーに通告する。
- ・ クルーへの通告は：
 - ・ Boat Number と Crew Name (例「Boat A50, Australia」)
 - ・ Time Penalty の理由 (例「Interference!」)

- ・ 具体的な罰則（例「Penalty」）

(4) Penalty Umpire

① メンバー・用具

- ・ ITO 1 人、NTO 1 人。
- ・ Finish Line の少し手前のビーチ上に胸の高さの 1m 幅の衝立 2 枚を置き、その間を Penalty Box とした。



② 基本動作

- ・ Starter、Race Umpire、Turn Mark Umpire から無線や WhatsApp で Penalty の連絡を受ける。
- ・ Finish に向かって走ってくる Runner に対し Penalty を宣告する。
「Crew (name), Penalty Box, 1 minute」
- ・ Penalty Box に入ったら Penalty の時間をカウントする。
- ・ Penalty の時間が終了したら Finish に向かって Runner を走らせる。
「Crew (name), Go!」
- ・ False Start の Penalty は 120 秒。

(5) Judge at the finish（判定）

① メンバー・用具

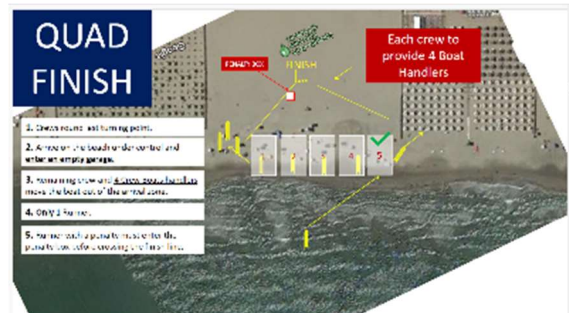
- ・ 今大会は Beach Finish だったが、Crew Captains Meeting で WR からは「WRCC は Spare Day がないこともあり、On Water Finish に切り替えることがある」との説明があった。（実際には Beach Finish を継続した。）
- ・ Finish Line には Swiss Timing のカメラが設置されるが、Judge at the Finish はその反対側に立ち、Finish 順に国名と名前を記録する。
- ・ Swiss Timing の Finish カメラは Runner の膝下の名前を手掛かりにバックアップとして機能する。

② 基本動作

- ・ 次々に Finish Line を通過する Runner のユニフォームを注視し、Country（例：JPN01）と選手名（苗字（最初の 2〜3 文字が精一杯））を白紙にひたすら書き留める。全クルー Finish 後、Start List に着順を転記する。

③ 現場での気付き

- ・ NTO には艇が着岸したら Country 名を教えるように言っておく。そうしないと紙面に視線を落として書き留めている間に次の Runner が通り過ぎてしまう。
- ・ Finish Runner は 1 人でなければならない。Crew Captains Meeting で「複数人が走っても良いのか？」との質問に、WR から「走るのは 1 人だけ、走る可能性がある選手が複数いるならそれら全員が膝下側面に苗字を書いておくこと」との説明があった。
- ・ Cox が Runner の場合、ライフジャケットを着たまま走る必要があるが、Judge at the Finish が Country と選手名を見るのに邪魔である。PoJ に進言したが「どうしようもない」と言われた。
- ・ ユニフォームの胸に Country も苗字も表示がない選手がいたので PoJ に通告した。



(6) Control Commission

① メンバー

- ・ ITO 1 人、NTO 多数。

② 大会前日の会場視察からわかったこと

- ・ Boat ID のステッカーは遠くからよく見える必要がある。Filippi の場合は貼るのに理想的な位置が平面ではなく他メーカーの艇と異なる場所に貼ることになり、結果的に貼る位置が艇ごとにまちまちとなるため、審判（特に Key Turn Mark Umpire）が短時間に多くの艇が目の前を行き過ぎる際にステッカー番号を見分けるのに苦労する。
- ・ 本大会では Crew ID をステッカーではなく厚紙を三角柱にして横倒しにしたものを Bow キャンバスにマジックテープで取り付けていた。三角柱は有名な山型チョコレートに形が似ているので、商品名のトブラローヌ（Toblerone）と呼ばれていた。
- ・ Buoyant Line が Towing Eye にしっかりと結ばれているかどうか、またロープの強度が十分かを確認した。



写真：トブラローヌ



写真：Boat ID ステッカー

③ CC-1 の基本動作

- ・ 発艇 120～60 分前に Cox 計量を実施する。
- ・ 発艇 60～30 分前にチェックインするクルーにリストバンド、GPS、Crew ID（トブラローヌ）を手渡し、Runner Identification（例：JPN01）を膝下側面（両側）に書かせる。
- ・ 基本的には NTO に任せる。



写真：Runner Identification

④ CC-2 の基本動作

- ・ 発艇 30～10 分前にチェックインするクルーの出艇監視をスタートビーチに面したテントで行う。（すぐ裏側には艇計量テントあり。）
- ・ チェック項目：Crew ID（トブラローヌ）、Boat ID（ステッカー）、Buoyant Line、Safety Life Jacket、GPS（Swiss Timing が取り付ける）、ユニフォームへの国名（Three Letter Code）・苗字の表示
- ・ 先に Race No.、発艇定刻、Boat class（ここまで用紙の一番上）と Lane No.、Country = Crew ID（例：JPN01）を書き込んだ Boat Number List に Boat ID、Uniform color、Blades color を目視して書き足したものを写真に撮り、発艇前に WhatsApp で全 Jury に共有する。（概ね 5 分前、遅くとも 2 分前には共有されていた。）

⑤ Boat Weighting の基本動作

- ・ 使用艇は Own Boat と Pool Boat が混在している。艇の重量は事前に確認することが推奨されていた。クラシカル同様、レース後にランダムに艇計量を行われた。
- ・ 艇計量スケールにはクッション材として古タイヤが使われていた。

6. Official Communication が発出された事態

Official Communication が出された事態について現場で聞いた内容を以下記載する。

(1) 設備不良による Re-row

・第3日 09:10 発艇 89 レース CJMix2x KO-3 は3 ストローク漕いだところでストップ、再レースを行った。TUN のシートに不具合があり、Boat Handler がシートの交換に奔走している最中にスタートしたため再レースとの判断になった。09:15 に再スタートしたが、今度は BAH のシートがなかなかはまらなかったようで Boat Handler が両腕を上げてアピールしたが構わずスタート。Starter が Lane Umpire に確認した上で、問題がなかったことを PoJ に報告。Finish 後、Lane Umpire は白旗を上げ、Race Umpire の自分も白旗を上げた。着順は TUN→BAH の順。その後、BAH が Object をしたと思われ、WR の Official Communication 3 として「設備不良により Re-row」との発表があり、このセッションの最後 09:45 に Re-row を行った。

<Official Communication 3>

https://d3fnp4c9813ycf.cloudfront.net/pdfDocuments/WRCC_2023_1/WRCC_2023_1_ROW-----OC_3X7863.PDF

(2) USA 除外

・第3日 14:15 発艇の CJW2x QF-4 で1 レーンの USA がフィニッシュ直前の最後のマーカースを通過後に横向きに進行してしまい2 レーンに侵入、2 レーンを直進してきた ITA と衝突した。PoJ が2 レーンの Lane Umpire の自分のところに走ってきて USA 除外について確認を求めてきたので「ITA が2 レーンのマーカースのすぐそばを直進してきたところに USA が突っ込んできた」と証言した。除外の発表は DJ がアナウンスした。

<Official Communication 4>

https://d3fnp4c9813ycf.cloudfront.net/pdfDocuments/WRCC_2023_1/WRCC_2023_1_ROW-----OC_4X9002.PDF

(3) 悪天候による日程変更・転覆艇の回収

BSF の第3日 14:41 発艇 (14:29 から時刻変更) 126 レース CJW2x の SF-2 で2 レーン FRA が折り返し直後に強風と高い波に煽られて艇が横向きになると共に転覆した。選手は転覆した艇を置き去りにして上陸し、フィニッシュラインを通過したが DNF 扱いになった。艇の回収はジェットスキーが艇に取り付いたものの何もできず、岸にいた Boat Handler 等 5~6 人が声を掛け合って艇に向かって泳ぎ出し、転覆状態を元に戻してから岸に曳航した。観客からは拍手喝采が起こったが、ジェットスキー以外のモーターボートが艇の回収に向かう姿は見られず、疑問を感じた。(艇の回収を試みてから着岸まで 5~6 分。) その後、当日の再開も検討したが天候が回復せず、翌日の Spare Day (予備日) 07:20 から残りのレースを行うことになった。

当日は 13 時過ぎから強風と高い波で艇が波間に見え隠れするようになり、13:48 発艇のレース中にはレスキューのジェットスキーが転覆し、もう 1 艇のジェットスキーがコースを横切り救助する事態も起きていた。

翌日朝も強風と高い波は残っており、復路で大幅に曲がってしまう艇が続出し、接触・妨害になりそうなレースがあった。

<Official Communication 5>

https://d3fnp4c9813ycf.cloudfront.net/pdfDocuments/WRCC_2023_1/WRCC_2023_1_ROW-----OC_5X6725.PDF

以上

<BSF Jury PoJ+6 人>



<WRCC Jury PoJ+14 人（予定の 15 人から 1 人（Matteo Montagnini ITA）減少）>

							
WIMMER, Lisa-Maria AUT 1716	GAUR, Flemming DEN 1560	GUTIERREZ PRAENA, Daniel ESP 1729	CLEMENTS, Phillip GBR 1649	PANKATZ, Daniel GER 1750	SAMIOU, Niki GRE 1440	WONG, Hang Tim HKG 1519	
							
NAKAJIMA, Daisuke JPN 1627	STERN Ivo MEX 1341	TIERNEY, Drew NZL 1365	HERRERO III, Ismael PUR 1269	SPOOR, Humphrey SUI 1603	NORDH, Kenth SWE 1338	BERGUIGA, Meriam TUN 1803	ALONSO, Angela WR 1439 4

<Jury Photo>

WRBSF ITO・審判委員メンバー



WRCC ITO・審判委員メンバー（中島離脱後）

